

第5回 横手市議会 議会報告会・意見交換会

次 第

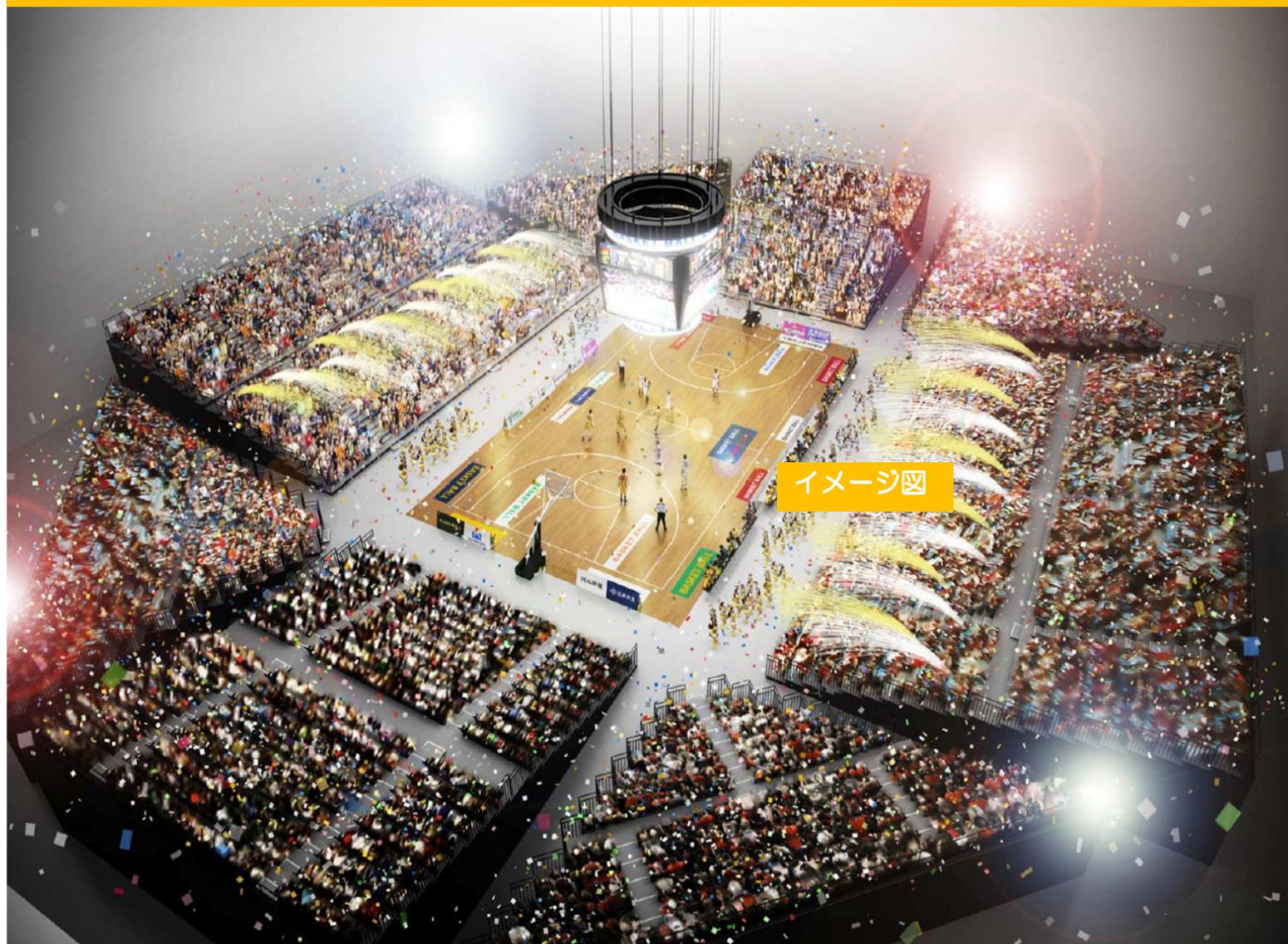
1. 開会のあいさつ
2. 議会報告
 - ①よこてアリーナ建設事業
 - ②よこて農業創生大学事業
 - ③報告に対する質疑
3. 市民と議員との意見交換
4. 閉 会



横手市議会マスコットキャラクター
“しらとり議員”

横手アリーナ構想

多機能型体育館建設事業



イメージ図

一般社団法人
アリーナスポーツ協議会
資料より引用

次世代
フラット4面
アリーナ
(YF4)

横手アリーナ構想

多機能型体育館建設事業

計画の概要

- ・総工費 約90億円
- ・施設維持費 年間約1億2千万円
- ・経済効果年間 約12億円
- ・施設の特徴
 - ◆バスケットコート4面
 - ◆観客席約5,000席
 - ◆多用途の利用可◆災害時の拠点施設
- ・建設期限 平成33年3月まで完成
(合併特例債が使用できる最終年度)

横手アリーナ構想

多機能型体育館建設事業

①主な財源について

議：財源の7割が借金、将来世代に負担は？

市：財源の大部分を占める合併特例債は、後で国から借りた額の7割が補てんされる。実質負担は26億円であり建設費が財政を圧迫することはない。

②運営について

議：大規模なイベントを継続して開催(誘致)できる？

市：経済効果を生むための攻めの投資。経済効果は、市内で循環できるような仕組みを同時に構築していく。

横手アリーナ構想

多機能型体育館建設事業

③市民説明について

議：スポーツ立市条例実現に90億円の事業費をかけることは、議会も想定していなかった。もっと時間をかけて市民の声を聴くべきでは？

市：市民には、28年度の事業調査と並行して説明を行っていく。

④FM計画との整合性について

議：FM計画を進める中で新たに作る？

市：FM計画は、今すぐ公共施設を潰すということではない。当面アリーナと既存施設の相乗効果を図っていく。

その他の疑問

1. 市民の生活に本当に必要な施設？
2. 高額な使用料で、市民は使うことができる？
3. 横手市だけで受け止められる規模ではない。
近隣自治体との連携を考えるべきでは？
4. 今の施設を有効活用していくべきでは？
5. なぜ5,000席規模なの？

その他の疑問

6. 経済効果は、限られた一部の範囲では？
7. 人件費や施設維持に適切にお金が使われるの？
8. 子育て福祉等の足元の暮らしに目を向けるべき。
9. 後方支援施設を市民の税金で作る理由は？
10. 国や県を巻き込んで財源を増やせないの？

市の説明(その他)

1. プロスポーツ競技やコンサートを開催する。
2. 市外から人が集まり、市の経済が活性化する。
3. 市内施設では、大規模なイベントが行えない。
4. 横手を元気にして未来に引き継ぐ財産となる。
5. PFI(民間運営)方式での運営を想定。
(建設、維持コスト削減のため)
6. 大規模災害に対応できる拠点施設の整備が必要。他の施設では代わりにならない。

市の答弁(その他)

1. 経済効果12億円は、決して過度な数値ではない。十分見込めるものと思っている。
2. プロスポーツや大規模なコンサートを行うためには、**5,000席規模**の施設が求められている。
3. アリーナは**市民にも開放**する。使いやすい金額を設定。営業目的で使用する方には、相応の負担を求める。
4. 近隣自治体とは生き残りをかけて競争。横手の財政力だからこそ建設できる施設。
5. 県は日本海沿岸部が被災した場合は、横手を**後方支援拠点**とする計画にしている。

議員の判断

賛成意見

1. 若者を地元に残すため夢のある施設は必要。
2. 8,600人を超える署名は重い。
3. 建設しなければ、近い将来、老朽化した市民会館、横手体育館を建替えなければならない。
4. 常識を超えた発想が必要。
5. 合併特例債を使える今を逃せば二度とこんな施設は建てることができない。
6. 経済効果を生み出す施設。交流人口を拡大しなければならない。
7. スポーツ立市条例の理念を具現化できる。

議員の判断

反対意見

1. 身の丈に合った行政運営をするべきだ。
(財政規律は守らなければならない)
2. FM計画との整合性が取れていない。
3. 市民に全く説明していない。(民意を軽視)
4. 子育て、福祉など市民の生活のためにもっと
予算は使われるべきだ。
5. 基金が枯渇する見通しの財政計画の中で、大
型施設の建設は無謀。
6. 経済効果12億円の根拠が乏しい。

議会の判断

平成28年度当初予算から「多機能型体育館(よこてアリーナ(仮称))建設事業」の事業調査費6700万円、全額を減額する修正案を議員6人で提出。

修正案に賛成議員3名、反対議員3名の討論を経て修正案を賛成多数(賛成 17人、反対 7人 ※議長は採決に入らない)で可決。



当初予算からカット！！



高橋市長は、合併特例債が使える期間内での事業完成を無理と判断して事業断念を表明。

よこて農業創生大学事業

安定した農業経営を実現するための拠点づくり

横手市実験農場



- ・種苗の供給
- ・研修修了生の経営実践

H28予算額：1億8,379万円
研修交流棟の新築
研修実証ハウスの新築 など

&

旧大雄中学校



- ・研修生の栽培実践
- ・6次化の支援(加工機能)

H28予算額：2,100万円
旧大雄中エリアの実施設計委託

よこて農業創生大学事業

事業の趣旨や方向性は理解する
が…

なぜ、旧大雄中学校敷地を使う
必要があるの??

グラウンド
の畑地化

校舎の解体

よこて農業創生大学事業

■委員会審査から

①施設の分散

議：3km離れた2つのエリアに同類の施設を分散させるのは非効率だ！

市：地域の既存施設(ゆとりおん等)を活用しながら市の農業の拠点として展開したい。実験農場は種苗供給基地としての位置づけ。研修機能が一体でなくても問題ない。

よこて農業創生大学事業

②旧大雄中グラウンドの改良

議：グラウンドを耕作土壌にするには莫大な費用がかかる。
実験農場の隣接地を購入した方が得策だ！

市：隣接地は基盤整備を行った優良農地。整備を行う場合、
補助金の返還が生じる。

③地元農家の協力

議：研修・実証ほ場に地元農家の協力を求めるべきだ。
全て行政でやろうとするのはおかしい。

市：行政だけでできるものではない。農家の方々に協力を
求めることは当然あると思っている。

よこて農業創生大学事業

④校舎の解体

議：なぜ校舎の解体までするのか。FM計画における空き校舎の方針がまだ定まってない。解体ありき、解体費用を捻出するための事業化ではないか。

市：地元から校舎の解体要望が出されている。事業化にあたり、地元要望への対応策を検討し、財源として解体に使える合併特例債を考えた。

⑤合意形成

議：旧大雄中跡地の活用について、地元などに対する説明が足りないのではないか。

よこて農業創生大学事業

賛成

厳しい農業情勢の中で、事業に対する市民の期待は大きい。

予算計上までのプロセスは納得できないところもあるが、ぜひ結果で示してほしい。



討 論

反対

旧大雄中での事業展開には、もっと地元の方々との協議が必要だ。

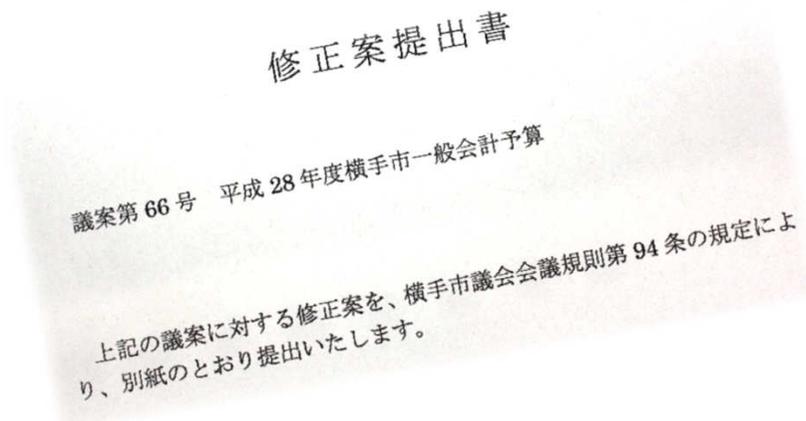
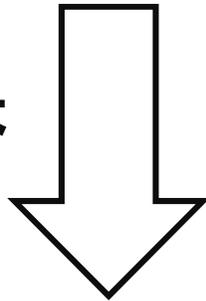
施設の分散もグラウンドの利用も納得できない。

全体計画が固まっていない中での事業費の計上は認められない。

よこて農業創生大学事業

旧大雄中学校エリアの設計委託料
2,100万円を減額する 修正案の提出

採 決



修正案可決（賛成15人・反対9人）



議会報告に対する質疑

- ◆できるだけ多くの方が発言できるように簡潔（2分以内）にお願いします。
- ◆挙手のうえ司会者の指名を受けてからお名前を言ってお話しくください。